

分科会②【子どもの生活と道徳的諸価値が豊かにつながり、よりよい生き方を求める  
カリキュラム・マネジメント】

# 子どもと教師の「いいなあ!」「やってみよう!」が 高まる授業づくり

香川県小豆島町立安田小学校 黒島 久美子

香川県土庄町立土庄小学校 山本 優子

## 1 主張点

- I 他教科や日常活動と道徳科との効果的な関連
- II 主体的・協働的な学びにつながる支援

## 2 研究の概要

- (1) 生活科との関連を図り、ふるさとへの興味・関心を高める（2年生での実践）
- (2) 特別活動や日常活動との関連を図り、よりよい集団生活につなぐ（5年生での実践）

## 3 研究の実際

- (1) 2年生での実践

### ア 自分のすむ地域が扱われたふるさと教材の活用により、ふるさとへの興味・関心を高める。

大人も子どもも、ともに地域の中で生活し、地域の様々な人やものとかかわって生きている。未来を担う子どもたちに、ふるさとへの誇りや愛着をもってたくましく生きていってほしいという願いから、「人々の思いや願い、現状を知りふるさとに対する認識を深めること」

「深めた認識をもとに自分のこれからの生き方を考えること」をめざした実践を実態に応じて行ってきた。小豆郡内全ての学校では、ふるさとのよさや先人の功績などに触れることができる教材の一つとして、「わたしたちのふるさと香川」を活用している。子どもたちがよく知る身近な地域が扱われた教材を活用することは、教師と子どもがともにふるさとの魅力を知り、ふるさとと自分との関わりを考え、よりよい生き方を求める意欲を高めることが大いに期待できると考える。

### イ 子どもの実態と学習のねらいに応じて生活科と道徳科を効果的に関連させ、主体的・協働的な学びにつなぐ。

2年生の段階では、ふるさと（小豆島）の自然や産業に親しみはもっているが、知らないことが多い。また、伝統的行事への参加や実体験も少ないことから、ふるさとのよさを具体的にイメージすることが難しい。そこで、生活科の町探検の活動と道徳科での学びをつなぎ、これまで何気なく触れてきた郷土の自然や文化、行事や施設には歴史があり、そこには地域の人々が守り受け継いできた営みがあることに気付かせたい。自らの体験を授業に生かすことは子どもの主体的・協働的な学びにつながる支援となるであろう。また、授業においては、ペアやグループ、全体での交流のもち方を工夫することや自分の生活と繋いで考えるための支援を行うことで、主体的・協働的な学びにつなげていけると考える。

## ウ 安田小学校2年生（16名）を取り巻く環境や実態からの支援

- ・校区内外でオリーブが栽培され、醤油蔵や製麺所なども身近にあるが「見たい・聞きたい・知りたい」という思いはあまり感じられない。「昔から続いている」という意識も見られない。
- ・特産品や行事を守る人の存在には意識が向いていない。
- ・実体験が少ない

### ☆生活科・道徳科での体験と知識をつなぐ支援

- ・生活科のまち探検時に「人の工夫や努力」に目を向けられるように支援する。
- ・生活科での記録カードや訪れた施設の魅力が想起できる写真等を道徳の授業で活用することで気付きを促し、広める。
- ・小豆島の特産品や自然とそれを守る人々の工夫や努力が分かる資料を提示する。

### ☆単元構成・交流の工夫（考えを深める・広める）

- ・安田のまちのすてきな人・もの・自然を見つけるという単元の目標に向かって子どもが周囲の人々とともに気付きを深めていけるように単元構成を工夫する。
- ・ペアやグループ、全体での対話の日常指導を継続し、道徳科の授業において対話を通して自分の考えを深める支援につなげる。

## エ 単元「安田のまちのすてきな人・もの・自然を見つけよう」の学習計画

### ①生活科（6月7日・第1回まち探検）

- ・城光商店：90年以上店を構えている店で商品を見たり地域の人々への思いなどを聞いたりする。
- ・馬場公園：自分たちの遊び場でもある公園にある建物に着目したり、老若男女の憩いの場、様々な活動の場であることを知ったりする。
- ・安田公民館：館長さんから、「何をする所か」「誰が、どのような部屋を利用しているのか」「昔から続く行事への思い」の話を聞く。

地域の人々の思いにふれる

～①での子どもの様子～

- ・校区内の公共施設や店を数多く挙げるができる子が多いが、「見たい・聞きたい・知りたい」思いを具体的にもつ子は少ない。
- ・探検後のカード記録は人の思いよりも、物に関する記述が多い。

### ②生活科（6月14日・第2回まち探検）

- ・空井農園：オリーブを挿し木で育てている様子を実際に見る。葉や実の様子を観察する。仕事の工夫や努力、オリーブの魅力を聞いて知る。オリーブ栽培、オイル製造を通してつながる世界中の人々との輪の話からオリーブについての見識を深める。

オリーブへの関心が高まる

～②での子どもの様子～

- ・校内、小豆島全体で身近にあるオリーブについての関心は低め。
- ・オリーブの育て方や魅力、品質のよいものを作る地域の人々の思いにふれて関心が高まっていた。

### ③道徳科（6月20日）教材名「わたしの町のたからもの オリーブ」

- ・オリーブや自分の町のことが大好きになった主人公の気持ちを考えることを通して、郷土の自然や文化への「いいな」「見たい・聞きたい・知りたい」「大切にしたい」などの心情を高める。

「安田っていいなあ」

～③での子どもの様子～

- ・①②の体験を想起しながら主人公が小豆島を思う気持ちに共感し、ふるさとへの興味・関心が高まった。

### ④生活科（6月21日）お礼の手紙を書こう

- ・2回のまち探検でお世話になった人へ、自分が感じたことや学んだことを伝えるお礼の手紙を書き、安田のよさについての気付きを深める。

の思いが高まる

～④での子どもの様子～

- ・③での気付き（地域の人々の工夫や努力、オリーブの魅力）を生かして自分が「いいなあ」と思うことを書けていた。

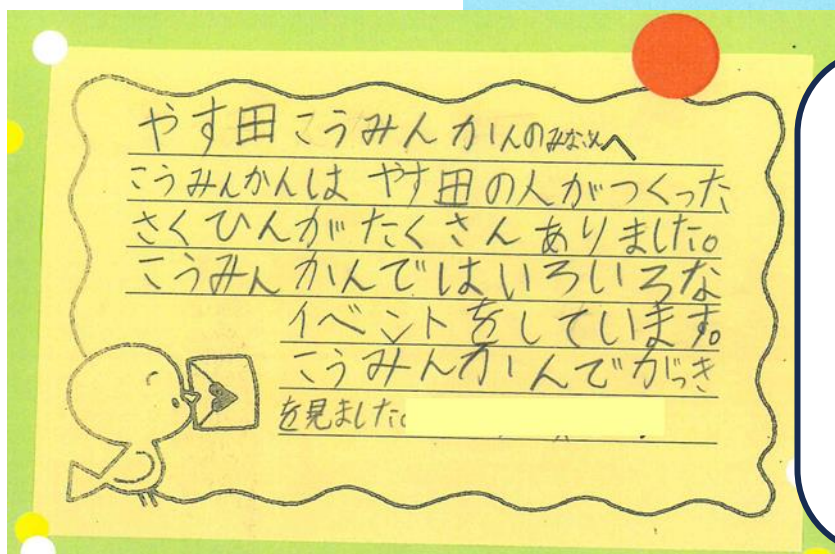
オ 道徳科「わたしの町のたからものオリーブ」学習指導過程

主題名・教材名		自分の町のすてき 教材名「わたしの町のたからものオリーブ」（香道研） Cー（15）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	
目標		オリーブや自分の町のことが大好きになった主人公の気持ちを考えることを通して、郷土の自然や文化への「いいな」「見たい・聞きたい・知りたい」「大切にしたい」などの心情を高める。	
学習指導過程			
学習活動		教師の指導・支援と評価，資質・能力に関わる支援	
1 今までの自分の町について学んできたことを振り返る。		・ 事前に教材を読み、感想を話し合っておく。 ・ 生活科の町探検で訪れた施設や説明してくれた人の写真などを掲示することで、自分の町の「いいなあ」と思うものや人に目を向けられるようにする。	
2 教材を読んだ感想や生活科の振り返りから本時の学習の見通しをもつ。		(主) 事前の感想を意図的に取り上げ、意欲的に学習課題に向かえるようにする。	
まあちゃんの気持ちから、自分の町のよさを考えよう。			
3 オリーブ栽培に取り組む人々やまあちゃんの気持ちを考える。 (1) オリーブ栽培に取り組む人々の気持ちを考える。 ・ 全体で (2) 成功したのは小豆島だけと聞いた時の主人公の気持ちを考える。 ・ 一人で ・ グループで ・ 全体で		・ オリーブ栽培において、困難に負けずに一生懸命にお世話をした人々がいたことをおさえ、どのような気持ちで栽培に取り組んだのか全体で意見を出し合う。そこで考えた人々の思いをふまえて主人公の気持ちを考えられるように、意見を板書に残しておく。 (発) 成功したのは小豆島だけと聞いたまあちゃんの気持ちを考えましょう。 (主) 主人公の気持ちを考え、ノートに書いたらグループで交流し、考えを深めたり広げたりできるようにする。 (主) 全体交流では、町への愛着や大切に思う気持ちに焦点をあてて考えるようにする。 <div>評 自分のすむ町のよさについて多方面から考えを深めることができるか。 ・ 考えを深めにくい児童には、写真をもとに好きな行事を思い起こさせたり、行ってみたい所とその理由をたずねたりする。</div>	
ずっと大切にされてきたすてきな自然やものがたくさんある小豆島っていいなあ。すんでいてよかったな。これからも大切にしたいし、もっと町のすてきなものを見付けたいな。			
4 本時の学習を振り返り、自分の町にある大切にされてきた自然やものに対する気持ちを考える。		・ 小豆島の自然やもの、長く大切にされてきた行事などを写真などで紹介し、「〇〇っていいなあ」「自分も大切にしたい」「もっと知りたい」という気持ちをもてるようにする。	
評価		主人公の気持ちを考え、生活科の町探検などをつないで、自分の町にあるすてきな場所やもの、人に愛着をもち、いいなあ、もっと見たい、聞きたい、知りたい、大切にしていきたいという心情を高めることができたか。	



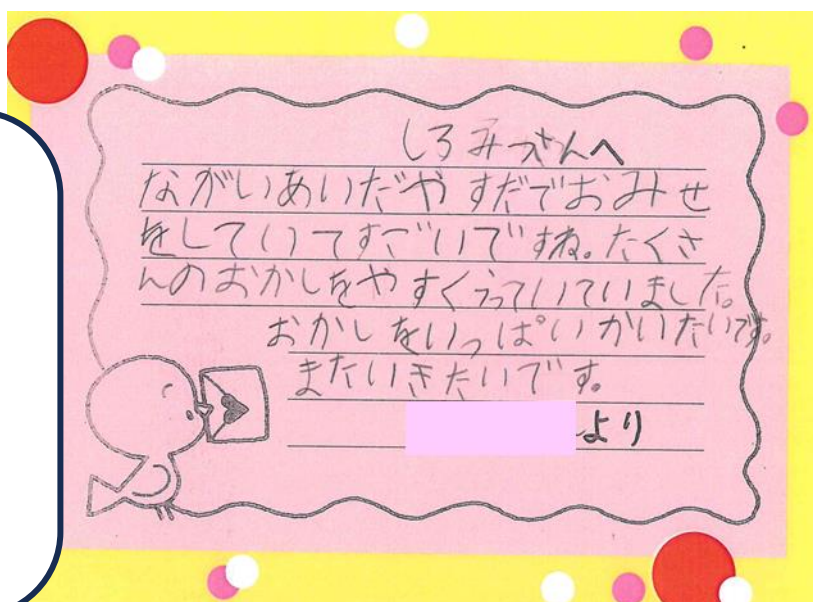
#### カ ④生活科「お礼の手紙を書こう」での子どもの意識の高まり

訪れた農園で作っているオリーブオイルが世界の大会で優秀な賞を受賞していることや世界の様々な国の人々が農園を訪ねてくることを知り、小豆島や生産者、そこで作られるオリーブ製品などのすばらしさに気付くことができている。



単元のはじめには、校区内の施設の役割やそこで行われていることには、ほぼ無関心な子が多かった。まち探検で公民館内の部屋やその使われ方、地域の人々の制作物、昔から続く行事についての話を聞いたこと、道徳科でふるさとのために努力した人々の思いを考えたことを通して、地域の人々の活動に関心をもつことができている。

地域の商店を訪れたことがある子は少なく、自分で買い物をした経験も少ない。まち探検の際にインタビューをして、「校区内で約90年続けている商店である」ことを初めて知ったり、店主から地域の子どもたちへの思いを聞いたりしたことで、地域の商店のよさを感じることができている。



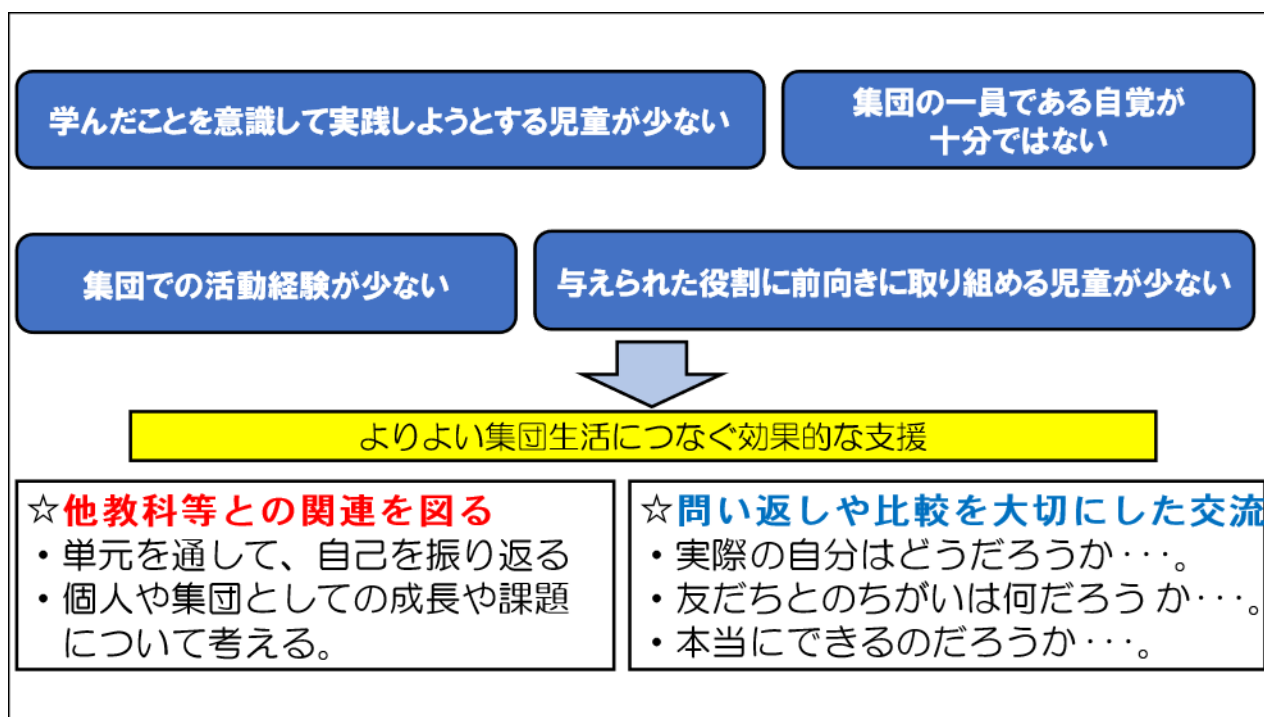
## (2) 5年生での実践

### ア 単元を通した振り返りと効果的な問い返しでよりよい集団づくりを目指す

子どもたちは、学級、委員会、クラブ、たてわり班等、様々な集団の中で生活している。また、高学年になり、新しい集団に所属することで学校生活をより楽しんだり、新しい役割を任せられ、より意欲的に仕事に取り組んだりする様子も見られるようになった。一方で、新しい人間関係の中で、慣れない不安や重苦しさを感じたり、与えられた仕事に対して意欲がわからず中途半端な気持ちで活動したりしている子どももいる。そこで、他教科等での学びや活動を通して自己を振り返る場を適宜設け、自分たちの成長や新たな課題を見付けながら、課題意識をもって次のステップに進めるような単元計画を立てた。そうすることで自分たちの集団をもっとよくしたいという気持ちを継続的にもち、高めていくことができると考えた。

また、本時では自我関与しやすい教材を用いて主人公の思いに共感したり、実際の集団生活での思いやその理由を共有したりすることで、安心した気持ちとともに意欲的に学習に取り組むことができると考えた。そして、高学年という発達段階から、教材を読んで「集団生活をよりよくする秘訣」に気付く事は容易であり、その大切さを理解することもできるだろう。しかし、「自分の学級をもっとよくするために〇〇しよう。」「満足していない役割でも、前向きにがんばっていこう。」と実践意欲を高め実際に行動に移せる子どもは多くない。「本当にできるのだろうか。」「実際の自分はどうか。」「友だちとの違いは何だろうか。」などと自分自身や友だちに問い返していくことで自己を再度振り返り、主体的・協働的に話し合うことができると考えた。

### イ 土庄小学校5年2組（28名）の実態からの支援



ウ 単元「充実した学校生活にしよう」の学習計画 (☆…振り返り) 子どもの実際の意識

① 4月 委員会活動、学級活動、たてわり班結成式

- ・責任をもって最後まで自分の役割を果たす大切さについて話し合い、委員会やたてわり班等の一員としての自覚をもつ。
- ・運動会を成功させるために自分たちができることを話し合うことで高学年としての自覚をもつ。

いよいよ高学年。委員会の仕事を楽しみだ。がんばろう！😊  
嬉しいけど不安もある。自分にできるか心配だな。😟

② 5月 学級活動・たてわり班活動（1年生を迎える会）

- ・会を盛り上げるためにできることを話し合い、高学年としての役割の大切さを理解する。（1年生の迎え）…☆（個人）

5年としてできることは何だろう…。😟  
1年生はかわいいな。😊でも大変だった…。😟

③ 5月 学校行事（運動会）

- ・高学年として精一杯努力する姿を見せたり、応援や整列等で手本となるよう行動したりして高学年としての姿勢を示す。…☆（個人・学年）

楽しむだけじゃいけないんだな。高学年として良い手本を見せたいな。よし！やるぞ！😊

④ 5月、6月 総合的な学習の時間（集団宿泊学習の準備、計画）

- ・活動班の役割決め、スタントの練習などを通して一つの目標に対してみんなでがんばろうという気持ちをもつ。

6月 学校行事（集団宿泊学習）

- ・協力して活動することの大切さを知る。…☆（個人）

6月 学級活動（集団宿泊学習の振り返り）

- ・集団宿泊学習を通して成長したことと、これからの課題について話し合い、新たな目標をもつ。…☆（学級）

活動を成功させるためには、役割が大事。自分は役に立っているのかな…。😟  
友だちのいいところを見つけたし、みんなで協力をしてがんばった。😊  
でも…自分たちができていないこともあったな。😟

⑤ 6月20日 道徳 教材「森の絵」

- ・主人公と自我関与させる発問や問い返しを工夫したり、主人公の複雑な思いを多面的に考えさせたりすることで、「よりよい集団生活」や「自分の役割」について深く考える。…☆（個人）

主人公の気持ちが分かる。自分や友だちはどうだろう。  
前向きに取り組む秘訣が分かった。😊

⑥ 6・7月 児童会活動（あいさつボランティア）

- ・これまでの活動を通して見えてきた学級の課題を解決するために、具体的な目標を立て、実践に移す。

どうしようかな。  
高学年として手本にならないと。やってみようかな。でも…。😟



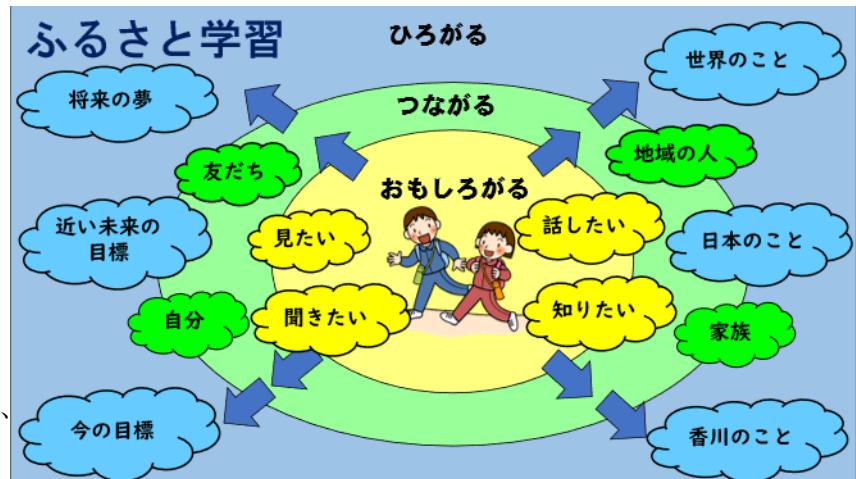
エ 道徳科「森の絵」学習指導過程

主人公と自我関与させる発問や問い返しを工夫したり、主人公の複雑な思いを多面的に考えさせたりすることで、「よりよい集団生活」や「自分の役割」について深く考えることができるだろう。	
主題名	みんなの力で 教材名「森の絵」(学研) C-(5) よりよい学校生活、集団生活の充実
目標	学級活動やたてわり班活動、委員会など、身近な集団における自他の思いについて話し合うことで、自分の役割を自覚したり、進んで参加したりして、よりよい集団生活にしようとする態度を養う。
学習指導過程	
<div>学習活動</div> <div>教師の指導・支援と評価、資質・能力に関わる支援</div>	
見通す	<p>1 自分の集団生活を振り返り本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが所属する集団(委員会、たてわり班等)についての経験や気持ちを振り返らせ、本教材に誘う。</li> <li>・主人公の気持ちの変化を確認し、本時のねらいにつなげ</li> </ul>
めあてに取り組む	<div>主人公を前向きにさせた理由について話し合い、よりよい集団生活の秘訣を考えよう。</div>
	<p>2 主人公が前向きになった秘訣について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で</li> <li>・グループで</li> <li>・みんなで</li> </ul> <p>⑧ えり子が前向きにならなかったらどうなっていたらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を果たす大切さを理解しているが行動がそぐわない事例を挙げることで、主人公の思いに共感させる。</li> <li>⑨ 比較したり、問い返したりしながら話し合うよう助言し、前向きに役割を果たす秘訣について活発な意見交流を促す。</li> <li>・「だれかがやらないと、げきにならない」という友だちの言葉を取り上げ、委員会や当番活動と関係づけて考えさせることで役割を果たす大切さに気付かせる。</li> <li>⑩ 自分の役割が得意ではないこと、好きではないことだったら自分ならどうするかを問いかけ深く考えさせる。</li> </ul> <p>評 集団生活での役割と責任について多面的・多角的に考え自我関与しながら話し合うことができているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団宿泊学習や委員会等での役割決めで、譲ったり、前向きに役割を受け入れたりした友だちの思いを紹介する。</li> <li>・よりよい集団生活を送るための秘訣を価値付け、今後の自己</li> </ul>
	<div>集団生活では一つの目標に向かって、それぞれが責任をもって気持ちよく役割を果たすことで、みんながよりよく集団生活を送ることができることが分かった。</div>
ふり返る	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活における新たな目標について考えさせ、よりよい学校生活への意欲を高める。</li> </ul>
評価	<p>任された仕事に前向きに取り組むことについて、学級での当番決めや委員会、集団宿泊学習等での経験と関係づけながら話し合い、「よりよい集団生活」や「自分の役割」について深く考え、新たな行動目標をもつことができたか。</p>

#### 4 研究の成果と課題

##### (2年生の実践より)

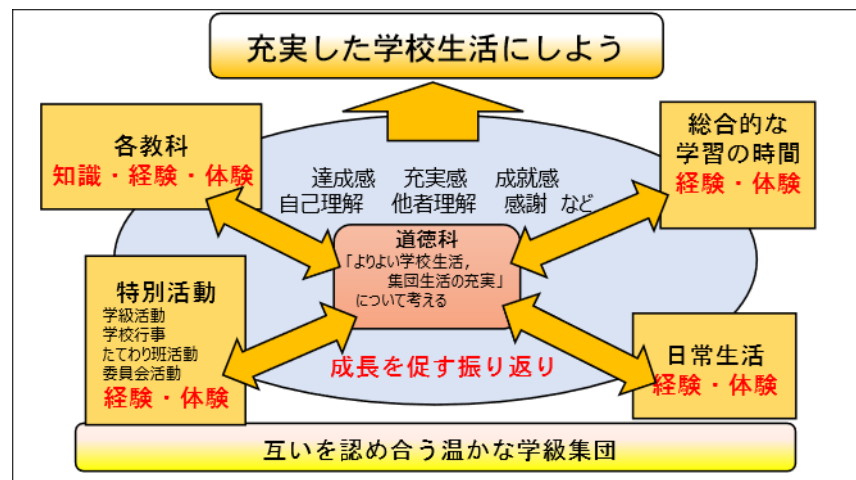
○生活科と道徳科を関連させ  
ふるさと教材を工夫して活  
用することで、子どもの実  
態をふまえて単元を構成し、  
目標に向かって意識を高め  
ていくことができた。また、  
教師も子どもとともにふる  
さとへの興味・関心が高まり、  
生活科での体験と道徳科での  
学びをつなげて「郷土を愛する態度」について深く考えることができた。



- 小豆島で生活する子どもにとって身近なオリーブが教材に取り上げられていたことで、学習課題に意欲的に向かえていた。生活科での体験とつないで考えることで「安田っていいな」「好きだな」「小豆島のことをもっと知りたいな」という思いも高まった。
- 単元を通して、また1時間の道徳授業の中でのペア・グループ・全体交流における適切な支援を行い、さらに自ら気づきや学びを深めていく子どもを育てたい。

##### (5年生の実践より)

○本時では、5年生として所  
属している集団について  
じっくりと振り返る時間  
を取ることで、自分の心  
に向き合い、前向きになれ  
ない理由を引き出すことが  
できた。子どもたちは立場  
や役割を理解しているが、  
様々な思いがあることが  
共有でき、主体的に話し合  
いに参加することができた。



- 他教科等、様々な活動を通して常に集団や自分が置かれている立場を意識させてきたことで、子どもたちは役割の大切さを理解できた。活動ごとに自分たちの成長や課題を確認したこともあり、学級の目標も見えやすくなった。「協力」「役割に責任をもつ」「みんなのために」「感謝」を意識して今後もよりよい集団づくりを目指したい。
- 本時の後、あいさつボランティアを主催する総務委員会の子どもの思いをみんなで共有することで、ボランティア活動に前向きに参加しようとする子どもが出始めている。
- よりよい集団をつくるための秘訣や役割の大切さは理解できた。しかし、自ら意識を変えて実践につなげようとする子どもは少なかった。「よしやってみよう。」と思えるしかけを教師が意図的につくり、子どもにつないでいくことが、子どもの集団への意識をつなぐのだと分かった。



